

新琴似歌舞伎傳承会の取り組み

新琴似歌舞伎傳承会 事務局長 みやざき 宮崎 よしはる 義晴

【復活公演までの概要】

明治20年5月、主に九州出身者が新琴似へ屯田兵として入植して以来、5年超の歳月が経ち、開拓も進みやや落ち着きが見られてきましたが、まだまだ日々の生活に余裕が乏しいそんな中、一人の青年、田中松次郎さんを中心に地域の若者が集い、日々の厳しい労働から精神的な開放や発散と娯楽を求めて発祥したのが新琴似農村歌舞伎でありました。

当時、村人が集結する会場が若松館であり、癒しと娯楽、情報の館でもありました。

しかし、文明開化の影響を受け、その一つである映画が登場すると、村人が私財を費やしつつ守り続け「農村文化の走りよと…（島田無響先生の脚本より一部抜粋）」ともうたわれておりました新琴似農村歌舞伎は、大正初期、新しい文明に憧れ流れてゆくなか惜しまれつつ終焉をむかえる運びとなりました。

それから約70余年が経った平成5年7月、眠り続けている新琴似農村歌舞伎を再び眠りから目覚めさせるべく、新琴似歌舞伎傳承会を設立しました。会の目的も新琴似農村歌舞伎の保存・伝承と掲げ、平成8年3月、80余年ぶりに待望の復活公演を果たしました。

北区行政による財政面や資料提供などのご支援、地域住民のご理解とご協力など多くの方々による多大な尽力が結集したおかげです。復活公演の演題は、歌舞伎演目で知られている「青砥稿花紅彩画＝あおと ざうしはなのにしきえ 通称…白浪五人男（浜松屋と稲瀬川勢揃いの場、各一幕一場）」に決まりました。出演者は全員素人、当初は稽古も間々ならず、「果たして復活公演が果たせるであろうか」と、悩みごとも多くありましたが、当日の昼夜2回の公演は会場がともに満席近く、演技もそれぞれ見事（自己満足もあり…）な出来栄で終わることが出来ました。公演終了

後に行われた反省会は、大変盛り上がったことが今、思い出されてきます。この雰囲気が続くことにより会の目的は途絶えることがないことを確認した次第です。

【近年の活動内容】

平成25年ノースウイング第20号で紹介させていただきましたように、地域の屯田兵中隊本部保存会（兵舎は札幌市有形文化財指定）と共に、地元中学生（1年生）を対象に歌舞伎講座を毎年開催しています。地元の「歴史的あゆみ」や「そのなかで歌舞伎が果たした役割」などを知り郷土愛を深めるとともに、歌舞伎を自ら演じその醍醐味や造詣、日本古来の伝統文化・芸能に接し関心を持ち続けてもらうことを願い、平成26年度で9回目を迎えました。ここまで続けてこられたのも、学校側の関心度の高さ、生徒の積極性や保護者によるご理解とご協力の結果です。



平成 26 年 9 月 4 日の第 9 回歌舞伎講座では、演目を考慮し参加生を 10 名と考えておりましたが、過去になく 26 名と応募生が多く、その中から 10 名を基準に選抜してゆくなかで、応募生の心情を思うと胸が張り裂ける思いでした。参加したくても出来なかった生徒、また参加ができて役柄について自分の思いと異なった生徒、クラブ活動や塾との兼ね合いで思うように稽古へ参加することが出来なく苦慮した生徒、また当初、下駄履き着物姿（浴衣）の稽古で自己発揮が思うように出来なかった生徒など、試行錯誤の連続でありました。しかし、生徒たちはそれらを乗り越え、当日は花道で堂々と見えを切る見事な演技力を披露し、また裏方としても立派に役割を果たし、その姿には感服させられたしだいです。

今回、生徒たち自身が演技や裏方の役割をそれぞれ担当したことはかつてない現象であり、私たちが願っていた伝承活動の成果がようやく、一步一步、着実に実ってきた証しであることと喜び、次年度へ弾みができました。

今回、演技や裏方で活躍した 10 名の参加生を囲んだ反省会では、参加した喜びとして「今まで体験したことのない事柄を知れた」「身についたことが出来た」「出来れば次年度も舞台に立ってみたい」など、新しい自分を見出す言葉が次々と聞かされ、私たちはこの貴重な経験がこれからの生活や活動の糧になりますよう、期待しております。

また、出演された生徒の保護者からは、歌舞伎を通し、「今日、こんなことが、こんな稽古であった」など、今まで親子の会話も少なく悩んでいたこと



新琴似歌舞伎中学生公開講座

がこの機会を通し、接する回数や会話も増えてきたとの喜ぶ声を聞くことができ、親子の絆が深まってゆくことへ僅かでも役立つ事となり、思わず感動したところです。

今までにない多くの喜ぶ声、感動を与えてくれたことは、この講座の意義、継続の大切さと成果があがった 1 年でした。

平成 26 年は、伝承会員にも数年ぶりに舞台で演ずる感触を味わう機会に恵まれた 1 年でもありました。新琴似文化振興会 20 周年記念芸能のつどい（11 月 7 日）への参加です。

この会は、地域の皆さんが日頃より同じ志向を抱く仲間と集い、舞踏をはじめコーラス、詩吟など多くの文化・芸能部会が、日頃の成果を発表する会です。伝承会も芸能部会へ入会しており、今回は周年記念行事でした。

伝承会の公演は、会長の凛々しい口上で幕が上がり、「白浪五人男（稲瀬川勢揃いの場、一幕一場）」を演じ、日頃培ってきた活動の一端を披露させていただきました。

新琴似まちづくりセンター長には特別出演を願い、伝承会の公演をより一層盛り上げていただきました。会場からはその名演技と普段見ることのできない一面に、盛大な拍手が送られ、伝承会としても素晴らしい会員が増え、この上ない喜びを味わうことができました。

会員も久しぶりの公演ゆえ、中学生への伝承活動と異なり、経験や舞台慣れしている積もりで臨んだところ、稽古回数も思うように取れず、稽古不足が響き、当日は台詞を一瞬忘れたり、取り違えたり、思わぬ出来事へ慌てたり、苦笑したり、



新琴似歌舞伎中学生公開講座

2. 北区に根付く地域文化



会長による口上

冷や汗をかくなど、今まで体験することのなかった事が次々に起こり、これも中学生たちの手本となるよう意識過剰の結果と勝手に解釈し、でも無事責任を果たすことができ安堵いたしたところです。出来栄えに賞を頂けるとしたなら、敢闘賞いや健忘賞または弁解賞…でしょう。



公演後の記念撮影

【今後の課題】

悩みはどの組織、会社でもあるように、私たちの伝承会にも多々あります。

一つは、会員の高齢による弱体化。その補てんへ新規会員の勧誘と増員を図っております。

盛んにいろいろな機会を捉え呼びかけるなど、勧誘や増員活動を展開実施いたしておりますが、今ひとつ成果が表れず悩んでおります。期待は、今まで歌舞伎を経験してきた若き中学生、卒業生、歌舞伎に関心のある方です。ぜひ会員になっていただくことを期待しております。

一つは、安定した保存、継承活動を続けてゆくためには多額の財源が必要とされております。伝承会は、その安定した収入を得る特別な事業活動

を実施いたしておりません。会員の活動は全て熱意のボランティアと僅かな年会費が財源であります。ゆえに活動も自ずと抑制せざるに至ります。幸い各企業にいろいろな規約を定め、地域活動の促進や活性化、文化の向上などを図る助成金制度があり、少ない該当率に望みを託した申請書の作成へ微力ながら尽くしているところです。

また、歌舞伎講座がマンネリ化してきていることです。これは是非、早急に改善策の検討が必要です。保存と後世への伝承を絶やさないことを最重視し、古きよき事柄を保ち、いかに現代的内容に転換すべきかを考えています。

例えば、関係者の助言を受け、今までの講座で演じてきた脚本の良い箇所は継承し時には内容を書き換える工夫などの検討、観客や参加する生徒たちにも更なる魅力が感じられ分かりやすい内容へ、衣装も現代風の服装へ、また新しい演目を模索するなど、プロの歌舞伎役者ではないだけに全体を見直し、誰からも好かれる親しまれる演目や脚本の選択が問われてきた感じがいたします。

果たして良策か否か判りませんが積極策の取り入れは、今後の伝承会組織が歩む道、在り方、発展にも大きく影響を及ぼす結果になるかと思えます。そのためにも会員の活動と更なる関心・研鑽が大切なことは述べるまでもありません。

平成 27 年は干支が羊です。新琴似歌舞伎伝承会を設立し、復活初公演を果たした平成 8 年 3 月から 19 年目を迎える意義ある年度です。過去の反省と全会員の英知を結集し、諸々の難題をわずかでも解消し未来が拓かれる年になるよう、力を合わせてまいります。

どうか、課題解決へ良き助言を願います。

新琴似歌舞伎伝承会では新規会員を募集しています。年会費は 4,000 円です。詳しくは下記までお問い合わせください。

○お問い合わせ

新琴似歌舞伎伝承会

TEL.011-764-8804 (プラザ新琴似内)